

事例 ● 暑中見舞いで つながりづくり

分類：

居場所

アウトリーチ

相談

学習支援

見守り

住民主体

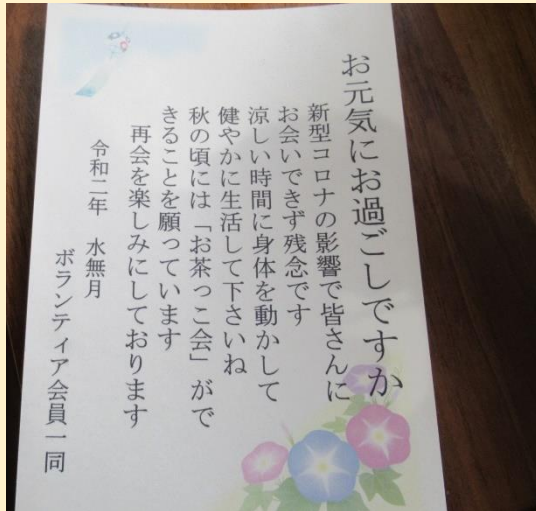

運営団体基本情報

|          |   |                 |                             |       |               |
|----------|---|-----------------|-----------------------------|-------|---------------|
| ● 運営団体名  | 栗原市若柳 下在さくら会  | ● 代表者名          | 代表 鈴木 のぶ子                   | ● 所在地 | 栗原市若柳武鎗字荒町沢65 |
| ● スタッフ構成 | 会員 30名  | ● 運営財源          | 自主財源(会費制) 栗原市社会福祉協議会より活動助成金 |       |               |
| ● 連絡先    | TEL: 0228-32-3083 Mail: yr-takahashi@kurihara-sfk.or.jp | ● ホームページ (参考情報) |                             |       |               |

新型コロナウイルス感染症拡大前の事業概要

|         |               |          |       |        |          |
|---------|---------------|----------|-------|--------|----------|
| ● 対象者層  | 65歳～90歳 高齢者男女 | ● 活動頻度   | 年7回程度 | ● 活動場所 | 下在生活センター |
| ● 活動の形態 | 高齢者の自主運営交流サロン | ● 平均利用者数 | 30名   | ● 利用料金 | 一回 500円  |

【活動の特徴と新型コロナウイルス感染症対策】

|         |   |   |            |   |
|---------|---|---|------------|---|
| 具体的な活動  | ● 新型コロナウイルス感染症拡大前   | 高齢者サロン会を20年ほど継続し活動をしている。支援者側がボランティアさくら会として運営し主催している。朝の歌、軽体操、季節ごとにアトラクション等も取り入れ高齢者の楽しみの居場所となっている。  | ● 活動経費     | @500 一人 30人 5回 75,000円<br>@2000 一人 30人 1回 60,000円<br>栗原市社会福祉協議会より助成金 50,000円  |
|         | ● 新型コロナウイルス感染症拡大後の取組と工夫   | サロン会は安否確認の目的も兼ねた活動であるため、再開を計画したものの、不安の声が多く現在も休止中。高齢者の孤立感を解消したいと、ボランティアで話し合い、近距離にいながらも、あえて郵便を使った暑中見舞い(カモメール)を送る支援を行う。自分あてに届いたはがきに、受け取った高齢者は「ほんとに嬉しかった」「お手紙なんて 久々に届いたの」と声を弾ませていました。 | ● その他、特記事項 | ★市町村基本情報<br>宮城県栗原市 県北部に位置し、市の面積が県内最大の約800平方km。自然と四季のうつろいが大変美しい高原都市。<br>人口 66,565人 高齢化率39.7% (2020.4末)   |
| ● 取組の効果 | 年齢を重ね、高齢者でも地域の中の一人として、自分の存在を忘れられて居ない、気に掛けてくれる人がいてくれるとの安心感を持って、目的の孤立解消に繋がった。 |   |            |   |